

本日のおもちかえり  
2017年8月13日

1) ローマ人への手紙1章18節-32節を読みましょう。このところを読んであなたはどんな感想をもちましたか。ここはローマ人への手紙本論の冒頭の言葉となります。なぜパウロは冒頭にこのようなことを書いたのでしょうか。

2) ここに書かれていることは今の時代とは無関係なことですか。あなたと無関係なことですか。

3) なぜパウロは21節において「弁解の余地がない」と言っているのでしょうか。私達は何によって神の存在を知ることができますか。普段は「神などいない」と言いながらもなぜ人は危機に直面すると神に祈るのでしょうか。

4) 私達が抱えている問題の原因の多くはどこにありますか。その出所はどこでしょうか。

5) 18節の「神の怒りは不義をもって真理をはばもうとする人間の、あらゆる不信心と不義とに対して、天から啓示される」とあり、その内の「真理をはばむ」の「はばむ」には「フタをして、その上に座る」ことを意味します。ここから真理に対する私達のどんな思いを見出しますか。

6) ヨハネによる福音書9章41節を読みましょう。この言葉が言わんとしていることは何ですか。

7) ヨハネ1章1節-5節、ヨハネ8章12節、ヨハネ12章46節を読みましょう。ここから光はどこから来るのかが分かりますか。この光に対して闇はどんな力をもっていますか。なぜ、この光に照らされることが私達には必要なのでしょうか。